

知人友人の皆様へ

今日は、今から 70 年前に日本軍が真珠湾の米海軍を攻撃して、アジア太平洋戦争を開始した日です。

この日に当たり二度とあやまちを犯さないように、わが子孫への遺言とでも言うべき以下の一文をお送り致します。

やや長文かと思いますが、私が一生をかけて学んだ最も大切なことを書きましたので、どうぞ暇を作ってお読み下さるよう心からお願い致します。

教科書を墨で消した、私の小学生時代

杉浦公昭

私が山あいの恵田国民学校(小学校)へ入学したのは、昭和 17 年 4 月です。丁度日本が大東亜戦争(太平洋戦争)を始めて 5 ヶ月目でした。入学時の記念写真を取り出してみると、いがぐり頭に着物を着て、わら草履を履いた友達が何人もいます。

後ろに映っている荒壁の校舎には、理科室がありました。本棚の上から、村で捕まったキツネやタヌキのはく製が、私達を見下ろしていました。

同級生は 15 人で、学校全体では、1 年から 6 年まで合わせても、100 人には数人足りませんでした。

そこで、1・2 年、3・4 年、5・6 年を教える 3 人の先生と校長先生の 4 人しかみえませんでした。

学校へは、かばんだけでなく防空頭巾を肩からたすきにかけ、竹のだんじょう(棒)を鉄砲代わりにかついで、低学年を先にして 2 列縦隊で歩いて行ったものです。

校門には赤い腕章をつけた週番が、やはり右手にだんじょうを持って、いかめしく立って居ました。

私達の隊列が校門にさしかかると、高学年の班長が「歩調とれ」、「頭右」等と号令をかけ、皆は、1・2、1・2 と歩調を合わせながら、顔を週番向けます。すると週番は「捧げ筒」の姿勢をとり、敬礼の挨拶をします。

学校に着くと授業前に時々朝礼という集まりがありました。

全校の先生と生徒が校庭に集まり、東の奉安殿(天皇陛下のお写真と教育勅語が納められていた)に向かって最敬礼(体を90度まげる)し、西の伊勢神宮に遠くからお参りし武運長久(戦の良い運が続くこと)をお祈りしました。

それから、校長先生の長い長いお話がありました。

校長先生は「**神さまの国である日本は大東亜共栄圏(共に栄える大きなアジア)を築く聖戦を始めました。**

これに刃向かう鬼畜米英を撃滅しなければなりません。先日の大本営発表によれば、フィリピン沖で敵艦3隻を撃沈しました。わが軍の損害は軽微でありました。・・・生徒の皆さんも、この国の大事業のために立派な兵隊さんや銃後のお母さんになってもらいたい・・・」等と話されました。

幼かった私は、照りつける真夏の日ざしに喉が渇き「早くお話が終わらないかなー」とばかり考えていて、お話の中身は何のことか、良く分かりませんでした。体の弱い子等は、良く貧血を起こして2人、3人と倒れたものです。

1年生になって、一番初めにならったカタカナは「ススメ ススメ ヘイタイ ススメ」でした。

音楽でも「今日も学校へ行けるのは、兵隊さんのお蔭です・・・お国のために戦った兵隊さんのお蔭です」と歌いました。

「修身」だけは校長先生の授業で、「木口小平という兵隊さんは死んでもラッパを離しませんでした。

このように、恐れ多くも(ここで先生も生徒も全員が直立不動の姿勢を取らされる)**天皇陛下のおん為死ぬことが最も立派なことです!**」とか「日本の国は神さまによって造られ、万世一系で現人神の、恐れ多くも天皇陛下によって治められている国です」等と話されました。歴史でも「蒙古が襲ってきた時、神風が吹いてきて日本は救われました。鬼畜米英の艦隊も遠からず神風によって沈められ、日本は勝利します」と教え込まれたものです。

2・3年の頃、恵田の村から出征兵士をお見送りするというので、学校が早引けになったり、出征兵士の遺家族の家へ麦かりなどの勤労奉仕に行き、授業が無くなったりしました。

また、校庭の東の山肌に、茶わんのかげらで横穴式の防空壕を掘り、そこへ逃げ込む練習をしたこともありました。

ある日、空襲警報が発令され、私たちは皆防空壕に隠れていました。

その時、敵のグラマン艦載機が機銃掃射をして飛び去りました。

思えば、誰か死んだかもしれない大変なことだったのに、私たちはあまり驚きませんでした。

あとで山肌に突き刺さっている弾丸を掘りだし「戦利品」と言い、首かざりにした生徒さえいました。

3年生の秋頃、沢山の戦死者が白木の箱に入っ帰ってみえました。その合同葬が1里先の岩津国民学校の校庭で行なわれることになり、全校生徒で出かけました。

お焼香の後、拡声器から隣村(丹坂)の戦死者・岩瀬正さんが作られた悲しい歌が聞こえてきました。

「緑の丘を血に染めて、 夕やみ迫る山頂に、 涙で立てし
日の丸を、 屍となりて眺め見る、 君は万歳の声もなし」と。

翌年の夏、家の庭でセミを捕っていると、大人達がラジオの前集まり、神妙な顔をしていました。何でも「戦争は終わった」と言うのです。

その頃、食べ物が無く、校庭を掘り起こして薩摩芋を作っていました。また、田の畦道で作った枝付きの大豆を、校舎の周りに張った縄にかけて乾燥させました。取り入れる時、周りに落ちた大豆を拾い集めるのに、同級生全員で手分けして手で拾う方法と、箒で掃き集め、ふるいで土と大豆を選り分ける方法とどちらが早いか、友だちと口論になりました。

そこを通りかかった戦争帰りの受持ちの先生がこれを見つけ、わけも聞かずに2人を回旋塔の所へ連れて行き、げんこつで往復ビン

夕をくらわせました。

2人は殴り倒されては立ち、殴り倒されては立ち、全校生徒が見守る中で立ち上がれなくなるまで殴られました。その日2人は放課後に残され、何故か先生から帳面を二冊ずつもらって帰ったことを覚えています。

2、3日後、村のうわさを耳にした父親が私をとがめました。私は一部始終話しましたが、父は何も言わず黙ってタバコを吹かしていました。

その頃、校庭の松の枝をおろして炭焼をしました。焼けた炭は冬に私達の弁当を温めるものでした。ところが、時々、その炭や薩摩芋を校長先生が私達に何のことわりも無しに自転車の荷台に付けて、自宅へ持ち帰られるのを見かけました。

日頃、正しいことをしなければならぬとお話して下さった校長先生のこのお姿を見て、大変驚くと共に疑問を感じました。

戦後、MPがジープに乗って、チュウインガムをかみながらやって来ました。その勢かどうか判りませんが、先生に「1年生から習った古い教科書を有りつ丈持って来なさい」と言われました。そこで学校へ教科書を持って行くと、習字の時間に「**墨を摺りなさい、そして兵隊さんや戦争の話、神様の話の所等を、全てまっ黒に塗り潰したり、×印を付けるように**」言われました。

何でもこの真っ黒に塗り潰した所は間違っていたと言われました。

この様に180度方向が変わる教育を受けたのは、私達が初めてで又終わりではなかったのでしょうか？

それは、私にとって大変ショックであった筈なのに、幼かった私は余り驚かず、先生の言われるままに墨で消して居ました。

しかし、この時の経験は、私が大人になって行く時、人間にとって一番大切なものは何か？、天皇陛下とは？、大東亜戦争とは？、平和とは？、等を学ぶ上で大変役に立ちました。

当時の先生方から「それまで『天皇陛下のおん為死になさい』と教えて来たのは間違いでした『人の命は最も大切、何があっても生き抜きなさい』」との言葉は聞けませんでした。

5年になると、新聞の様に一枚で、閉じていない教科書が来ました。これをハサミで切り、糸で閉じて、本にして使いました。

やっと本らしい本を手にしたのは、「国のあゆみ」という歴史の本でした。そこには神様が居なくなり、代わりに古墳や土器が在りました。

食糧難は5・6年生の頃まで続き、イナゴを集め、ゆでるだけで何の味も付けずに食べさせられました。かむと気持ちが悪く、飲み込むと足のギザギザが喉に掛かるので、涙ながらに飲み込んだものでした。

6年生の頃、男子も家庭科を習うようになり、手縫いで白足袋を作ったり、ミシンでパンツや体操帽を縫ったりしました。

料理の時間は、皆お腹が減っていたので、目を輝かせて学んだものです。

6年の春の頃、受持ちの先生が相撲を教えてくださいました。

夏休みに良く練習し、岩津町大会に出かけ、他の学校代表を破って優勝したことも在りました。

山の小さな学校でも一生懸命練習すれば勝てることを知り、良い経験になりました。

私の小学校時代に学んだ最も大切なことは、人間にとって命はかけがえが無いものであり、どんなに食べ物が無く、着る物が無く、住む家さえ無くても、戦争をしないうで、平和でさえあれば、校庭で薩摩芋を作るなどしてでも楽しく生きられるという生活の実体験でした。

(この一文は1975年年1月に小5・長男の担任から各父母に「戦争関係資料」の提出依頼があり、その時提出した原稿を若干修正した

ものです。

解釈改憲で海外派兵が行われ、教育基本法が改悪されて教育への行政介入が始まり、再び「日の丸・君が代」が強制され、過去の侵略戦争をアジアの解放戦争と美化する教科書の採用が始まり、明文改憲を強引に進めて「戦争する国」にされつつある今、この「一児童の戦争体験記」を心ある方々のご利用と、特に先生方の教材としてのご利用を切に望みます。)

(筆者は埼玉県川越市に在住)

タグ : 一番大切な物は命、 教科書の墨塗り、 暴力(戦争)の否定、 安保条約の解消、 平和憲法を守れ

